



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校155周年 YEAR を迎えて

大いちょう

令和 7年10月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和7年度 No. 6 048 (829) 2737

「明日(あす)も 進む いのちの日」より

校長 永山 誉

今年の梅雨入り・梅雨明けの時期の確定値を、気象庁が9月当初に発表しましたが、梅雨明けは関東甲信で6月28日ごろ(速報時点比20日早まる)となりました。また、今年の夏は今まで以上に暑かったとの報道もありましたが、長く暑い夏がようやく終わり、このごろは秋の訪れを感じるようになりました。このような気象状況の中、今週の土曜日には、いよいよ開校155周年記念運動会を開催します。今年度はこれまでのブロック学年ごとの実施から3学年による開催へと変更をいたしました。低・中・高学年による組合せは、子どもたちの成長の姿を想像しながらご覧いただけるのではないかと存じます。この日に向け、各学年準備を重ねてきました。当日は、御家族そろって、たくさんの応援をよろしく願います。

さて、皆様は、さいたま市が9月30日を「明日(あす)も 進む いのちの日」と制定し、毎年この日の前後1週間に、各学校でAEDの一斉点検や児童生徒へのAEDの設置場所等の確認など、様々な取組を実施していることを御存じでしょうか。この9月30日は、平成23年9月29日、さいたま市立小学校6年生の桐田明日香さんが、駅伝の課外練習中に倒れ救急搬送された後、30日に死亡するという大変悲しい事故が起きたことに由来しています。また、この事故を教訓とし、二度と同じような悲しい事故を繰り返さぬよう、翌年9月30日「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」を作成し活用を図っているところです。さらに、同テキストの作成から10年が経過した令和4年9月30日には、主体的に救命活動ができる児童生徒の育成のため、「ASUKAモデルフォーラム」を実施するとともに、実効的で持続可能な学校安全管理体制の充実を図ることを目的として、毎年9月30日を「明日(あす)も 進む いのちの日」に制定しました。本校においても、毎年校長講話の中で、この日のことに触れるとともに、AEDの設置場所等の確認をしています。

今年の講話長会の中でも触れましたが、埼玉県にゆかりが深く、一万円札の肖像画にもなっています「渋沢栄一」氏は、

「^{しょうじ}小事かえって^{だいじ}大事となり、^{だいじ}大事^{しょうじ}案外小事となる場合もある」

と言っています。これは、「渋沢栄一」氏の著書『論語と算盤』にある言葉で、この言葉には、物事の大小は表面的な見た目だけで判断できず、内容や性質をよく見極めなければならないという意味がこめられていると言われていたのですが、救急の場面に限らず、物事に対して常にこのような姿勢でいることが、大きな事故を防ぐことにつながるのではないかと考えています。私たちは、ちょっとしたことは、「まあいいか」と軽く考えてしまい対応することで、大きな代償を払わなくてはならない事態になることがあります。逆に、最悪を想定して本質を見極めてしっかりと準備をすることで、大きなことが案外簡単に解決してしまうこともあります。物事の大小にかかわらず、しっかりと準備をすることが大切であることを、子どもたちには、この「明日(あす)も 進む いのちの日」の内容に関連して伝えました。低学年の児童にとっては少し難しい内容となってしまったかもしれませんが、子どもたちには、この先生きていく上で、どこかでこの言葉を思い返してもらえればと思っています。